



着々と工事が進む広域農道（陣山-西山間の国鉄をまたぐ橋脚）

# 建設進む 広域農道

## 46%の工事が完了

### 南北道としての役割広がる

農産物の集出荷道路として、市内の穀倉地帯を縦断する広域農道。昭和四十八年、久礼田地区から三和浜改田地区までの大規模農道（延長約十キロ、幅七・五メートル）

が、県営事業として計画着工されました。

その後、石油ショックなどの影響を受け、実際の工事は昭和五十年から開始。そして、五十六年三月に久礼田から国分川までが完成。五十七年三月には、国分川橋が完成し、久礼田―三富間（二・五キロ）が結ばれ、昨年五月には、

ライスセンター東から北の部分（五工区）が舗装されました。現在陣山―西山間（六工区）の国鉄をまたぐ跨線橋の工事が進められ、この工区は六十一年度に完成の見込みです。また、南部黒汐ラインの接続部分（二工区）でも工事が始まっており、今のところ三分の二の路床工事が完了しています。残る二―四工区については、路線幅などを検討しており、四工区の一部ではすでに買収も進んでいます。

六工区、今後は排水の問題もあり、南の部分から工事を進める方向で、全線完了は、予算の配分の問題もありますが、後六―七年はかかるということです。南北道の少ない本市にとって、早い開通が望まれる広域農道。農産物の輸送道として、ジェット化された高知空港と高速道の南国インターチェンジを結ぶ道路として、その役割は一層大きくなっていくといえそうです。

